

# 本殿 解体修理

## 1.概要

本殿は楼門から拝殿、申殿と続く軸線上にあり南面して建つ。前殿、後殿から成り、両殿とも桁行五間、梁間二間、切妻造平入で、両殿の間を造合とする。また、前殿には一間の向拝を設ける。後殿西側北寄りに花堂（一間社切妻造）が付く。屋根は棟を工の字に配し、銅板一文字葺きである。内部は前殿、造合を一室の外陣とし、後殿は桁行五間を板壁で間仕切り、中央及び両端間を御神座、間の2室を祭器庫とする。御神座には中央を応神天皇、東に仲哀天皇、西に神功皇后を祀る。

建立年代は嘉永3年（1850）である。本殿は創建から約33年周期で造替（建て替え）をしたといわれているが、嘉永3年を最後に造替は行わず残された。

建立以降の大きな修理は明治19年屋根葺替、この時裏甲を取り替えた。明治40年屋根葺替え。昭和3年屋根葺替え。昭和8年、木部補修、塗装彩色塗り替え。昭和34年、木部補修、塗装彩色塗り替え。昭和49年檜皮葺きから銅板葺きに屋根葺替えを行った。

## 2.修理方針 【解体修理】

破損状況は軸部や床組に深刻な蟻害が認められ、谷樋や縁廻りの水濡れによる腐朽が甚大であった。小屋組にも雨漏りによる腐朽がみられた。外部の塗装彩色は昭和34年に塗られた合成樹脂塗料の劣化が著しかった。



図1 修理前南西面



図2 造合西側樋 破損状況



図3 床下 柱の蟻害状況

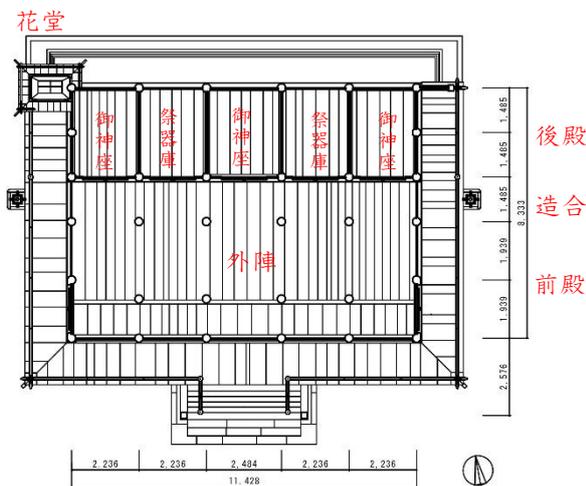


図4 平面図

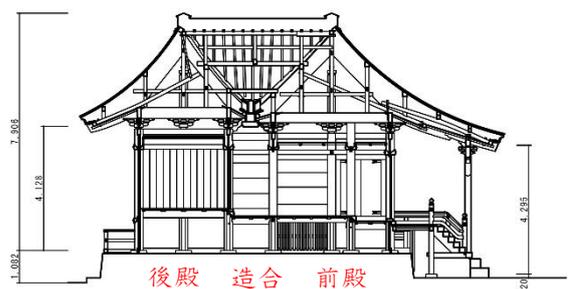


図5 梁間断面図